



ニュースレターくまもと

NEWS LETTER KUMAMOTO

Vol. 135

2025. 11

■ 発行: 一般財団法人熊本市国際交流振興事業団 〒860-0806 熊本市中央区花畑町 4 番 18 号(熊本市国際交流会館)
■ Publisher: Kumamoto International Foundation(KIF) TEL: 096-359-2121 / FAX: 096-359-5783
✉ pj-info@kumamoto-if.or.jp URL: <https://www.kumamoto-if.or.jp>

★CONTENTS★

P1 2025 年度の若者人材育成事業について
P5 世界を知る

P6 続・世界を知る
P8 電気設備改修工事に伴う休館、賛助会員募集

熊本市国際交流振興事業団 2025年の若者人材育成事業について ～20周年の節目を迎えた国際ボランティアワークキャンプ！～



第 20 回ボラキャン参加者たちとの集合写真

本年度 20 回を迎えた「国際ボランティアワークキャンプ(通称:ボラキャン)」は、令和 7 年 8 月 15 日(金)から 17 日(日)までの 2 泊 3 日、国立阿蘇青少年交流の家にて開催しました。ボラキャンは、「国際」と「ボランティア」を 21 世紀の教育のキーワードとして位置づけ、高校生が自ら企画・運営を行うキャンプとして 2006 年にスタートしました。

今回は、熊本県内外から集まった 111 名の高校生や留学生たちが、世代や国境を越えて共に学び合い、熊本と世界をつなぎ、次の時代を担う若者たちの成長を目指します。

本キャンプの大きな特徴は、運営の中心となる高校生実行委員会(Executive Committee:EC)の存在です。今回は 22 名の EC たちが集まり、春先から定期的にミーティングを重ね、テーマ設定、チラシ・ポスターづくり、プログラム企画、運営準備を全て担いました。

今回のテーマは「make the first step!! ～未来へのきっかけの輪～」でした。EC たちが考えたこのテーマは、周りを見て自分から行動していくことで何か新しい発見と、素晴らしい経験や思い出を得ることができるというメッセージが込められています。また、このボラキャンは「新しいきっかけから未来へとつなげていく輪になりますように」という EC みんなの願いも込められています。



第 20 回ボラキャンECたち



実行委員長の増田さん

キャンプ初日、開会式にて実行委員長の増田愛子さん(真和高校)が、普段の学校生活では出会うことがないような、「高校、学年、国籍が違う素敵な仲間たちが集まっています。是非この機会に自分から話しかけて、新たな仲間を増やしてください!」と呼びかけ、参加者に期待が入り混じった空気が広がったように感じました。

基調講演では、初回からこのボラキャンにご協力いただいている日本ボランティア学習協会の興梠 寛先生による「ボランティア概論～make a different 私が変わる、世界は変わる～」をテーマに 1 時間お話いただき、参加者たちは熱心に耳を傾けました。熱心に話を聞いていた副委員長の鋤野 百香さん(九州学院高校)と書記の谷口 心春さん(熊本西高校)の感想では「ボランティアはする側もされる側の両方がボランティアをしていて相手に必要とされることで生きることの意味と喜びを探究することができるという考えがすごく印象に残っています!」とのことでした。

続いて、ボラキャンのメインアクティビティ「分科会活動」に入りました。今回は、「多文化共生」、「医療」、「貧困」、「環境」、「災害」、「幸福」という分科会を設定し、それぞれ活動を始めました。開始当初、EC たちは初対面同士となる参加者たちの緊張をほぐし、話しやすい雰囲気をつくるためアイスブレイクを行いました。参加者たちの中には中国、台湾、韓国、モンゴル、バングラデシュ、インドネシア、ミャンマー、タイ、北マケドニアの留学生、また中国やフィリピン、韓国にルーツを持つ高校生といった色々な仲間が集まり、国籍や背景の違いを超えて共によりよい社会を築くために、私たちに何ができるかを考える内容となりました。



初日の夕方、多くの人たちが楽しみにしていたキャンプファイヤーを含む全体交流会をしました。会場となる草原へ向かう前、ホール(講堂)にてジャンケン列車を行い、このゲームで進行を担った EC が上手く説明したおかげで、みんなが積極的に参加し、想像以上に盛り上がりました。キャンプファイヤーの会場では、英語を使いたいという希望を受け、英語でビンゴゲームを行いました。この交流会は参加者同士や EC たちとの仲を深めることができて大好評でした。

二日目は分科会のまとめと翌日の全体発表に向けた仕上げを行いました。この分科会活動にあたっては、準備段階から本大会まで EC たちをサポートする社会人アドバイザーが適時アドバイスを行いつつ、ECたちを導いていました。EC にとっては、参加者とグローバルな課題の解決策を探るために、分科会をどのように進行するべきか、情報を伝える適切な方法や参加者の意見を導き出す方法について数ヶ月間、悩んできましたが、それぞれの分科会では活発な議論が展開され、うまくいかなかったことがあっても、その壁を乗り越えていた姿が輝いていました。はじめは緊張していた高校生たちも、互いに意見を交わすうちに次第に打ち解け、「自分の意見を言葉にして伝える」ことの大切さを実感した様子でした。



分科会の一コマ



未来職道の一コマ

二日目の夕方、ボラキャン恒例イベント「未来職道」を行いました。今回は12団体が参加し、高校生たちが様々な分野で活躍する団体と直接話ができる貴重な機会です。高校生たちは興味があるブースを周り、話を聞き質問していました。次年度に向けたECブースも設け、活動内容や役割などについて説明しました。ECブースを担った一人の渡邊美央さん(真和高校)は、同じ分科会にいた人たちが話を聞きに来てくれたのは嬉しくて、ECを引き継いでくれるとさらに嬉しいと話してくれました。



最終日は、各分科会の成果を全体で共有する「全体報告会」を行いました。参加者全員が発表する仕組みです。自分の殻を破って挑戦した参加者の表情は、不安そうな顔もありましたが、自分の発表する順番が来た時は勇気をもって真剣に発表し、聞いている側にもその熱意が届いたようです。副委員長の高木朝日さん(熊本中央高校)は、「反省点として、発表時間が足りなかったブースや質問がでずに静まり返っているブースもあったようなので、改善策として時間を意識した発表練習や、どんな質問を出せば、より活発な話し合いになるか事前に検討したほうが良いだろうとのことでした。

最終日の午後は、20周年記念事業、映画「ただいま つなかん」を上映しました。この映画は、宮城県気仙沼市唐桑町^{しげたち}鮎立を舞台とした2011年3月の東日本大震災からの復興の模様を10年以上追いかけたドキュメンタリー映画です。「災害」分科会担当の池田理来さん(文徳高校)と、谷口心春さん(熊本西高校)は「ボランティアは一時の活動で終わるのではなく、その後の生活にも多くの影響を与えてくれると感じました。長期的な活動を通して人を助けることだと知り、これからボランティア活動に携わる時は人とのかかわりを大切にしようと思いました。」という感想を述べました。

以下、参加者の声(アンケートより)

最終日に取ったアンケートから「昨年は不安の大きさと他の用事があって参加することができなかったのですが、今回、参加して本当に昨年も行けばよかったと後悔するくらい大満足の3日間でした。分科会活動では私にはない意見をたくさん聞けて驚き、わくわくしました。この分科会に入ったきっかけにあった疑問も解消し、新たなステージに進むことができました。」など好意的な感想が多かったように感じました。



第20回ボラキャン報告書 HP

「今回の3日間を通して、私が日常で感じていた世間の冷たさ、ボランティアの温かさなど多くの人が同じように感じていることを知って、自分に自信が少し持てたし、何かの行動に移す勇気ももらえました。本当に私の世界が広がる最高の3日間でした。」と感想を語りました。参加者一人ひとりにとって、この3日間は単なる合宿ではなく、人生の中で忘れられない学びの場となったようです。

また、3日目の夕方に行われた実行委員の生徒たちとの反省会の時、今年のボラキャンが終わってもみんなと別れたくないとECが口をそろえました。本大会の間、お互いを支えながら何回も助けたり、応援したりし、これからも一緒に何かできたらいいなという声もたくさん出ました。担当者として、みんなと深い関係を築けて嬉しくて自分も今年のボラキャンが終わって寂しく感じましたが、ECが成長していく瞬間に立ち会えることは何よりの喜びです。

ボラキャンは、熊本市国際交流振興事業団をはじめ、多くの団体や地域の方々の支えによって成り立っています。関係者の協力のもと、高校生が主体となってグローバル化していく地元で国際理解などに挑戦できる場が継続していることは、熊本の国際交流の大きな強みでもあります。

今回のボラキャンでは、これまでの経験を引き継ぎながら、さらに新しい形で世界の舞台で立てる人材育成を目指していく予定です。未来を担う若者たちが、自ら考え、行動し、互いを尊重し合う場として、ボラキャンが今後も多くの高校生にとっての“挑戦の舞台”となることを願っています。

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団 マグダレナ ムジゴト

自分ごととして世界を考えたい大学生が挑戦するグローバルワークキャンプ！(大学生版ボラキャン)

大学生版ボラキャンとして平成 25 年に始まった「グローバルワークキャンプ(通称:グロキャン)」は、コロナ禍で開催できなかった期間を乗り越え、2026年3月3日から6日まで、国立阿蘇青少年交流の家で開催します。地域と国際社会の課題を「自分ごと」として考え、行動につなげたい——そんな想いを持つ大学生たちが主体となって企画・運営する3泊4日のワークショップです。

このグロキャンは9月にキックオフを行い、呼びかけに集まった大学生実行委員がメインテーマを「防災」に決定しました。これから定期的にミーティングを重ね、プログラム内容やワークショップ設計、運営スケジュールまで考えていきます。

期間中は、「防災」をテーマにいくつかのグループに分かれ、地域や社会課題について意見交換を行うワークショップを実施し、それぞれが解決に向けた取り組みのアイデアを考えます。また、参加者や実行委員が日頃の活動を紹介するスピーカーセッションを盛り込み、他の活動を聞くことで新たな気づきを得る機会を設けています。

そして最終日には、ワークショップにおける話し合いの成果を共有するディスカッションを盛り込みます。各グループでまとめたアイデアや考えを全体で発表し、互いに学び合う時間です。また、活動の合間には、全体で交流できるアクティビティも計画し、初対面の仲間とも自然に打ち解け、チームワークを深める工夫が施されています。

これまでの参加者からは「色々な大学から集まり交流をすることができて非常に有意義な時間でした。基調講演やスピーカーセッションを通して、自分の考えていた価値観や考えがアップデートされたように思います。」との感想や、「初めての大学生たちで議題について話し合い自分たちの考えをまとめることで自主性や表現力を成長させることができました。」といった声が寄せられました。大学生が主体となることで、学ぶだけでなく、行動や意思決定の責任を伴った学びが得られるのが、このキャンプの大きな特徴です。

グロキャンは、大学、国籍の枠を超えた地域と世界をつなぐ学びの場として、学生の成長を支えるだけでなく、多様な価値観を尊重し合う多文化共創社会づくりにもつながり、互いに刺激し合うことを期待しています。

グロキャンHP





世界を知る

本稿では「世界を知る」をテーマに JICA(独立行政法人国際協力機構)デスク熊本や、国際交流、国際協力分野で活躍している方、海外で生活している方々の協力を得て、日本で生活する私たちが日ごろ、知ることが出来ない世界の興味深い話を紹介します

JICA海外協力隊 公衆衛生(ガーナ派遣) 春田 奈都美さん



みなさん、Maaha! JICA 海外協力隊でアフリカのガーナに公衆衛生で派遣されました、春田奈都美です。Maaha(マーハ)とは、ガーナの言葉、チュイ語でこんにちはいという意味です。今回はガーナの言葉、食べもの、衣服についてお話ししたいと思います。

突然ですが、皆さんは何曜日生まれでしょうか? 実はガーナには男女別に生まれた曜日で名前が決まる文化があります。これがとっても面白くて、その人の名前でも何曜日生まれかまで分かるようです。

ちなみに私は土曜日生まれの女性なので Ama(アマ)となります。同じ土曜日生まれの男性は Kwame(クワメ)、水曜日生まれの男性は Yao(ヤオ)、同じく水曜日生まれの女性は Yaa(ヤー)などあります。ぜひ調べてみてください。ちなみにガーナには民族が 80 以上あるといわれており、民族ごとに若干呼び方が違います。

私がガーナにいるときには、Natsumi よりも Ama と呼ばれていたことが多かったのですが、そう呼ばれると、ガーナ人も私を仲間として見てくれていたんだなあと嬉しくなったのを思い出します(Natsumi まで覚えてくれるともっと嬉しくなりました)。じゃあみんな同じ名前なのか、ということそうでもなくて、曜日での名前が本名の人もいれば、愛称みたいな感じで使われている人もいました。また、ガーナはキリスト教徒が 7 割ほど占めるのですが、ガーナのキリスト教徒には赤ちゃんが生まれてから数か月後に教会での名づけセレモニーがあります。それが行われるまでの赤ちゃんの呼び名としても曜日の名前が使われていました。



先ほど民族が 80 以上あるといわれていると話しましたが、これは正確な数は分からないといわれています。公用語は英語なのですが、その民族ごとに民族語があるのでガーナで使われている言葉はかなりたくさん! 私がいたアスオジャマン郡はチュイ語が多い地域で、私が現地で習った言葉はチュイ語でした。現地語で挨拶をするととてもガーナ人は喜んでくれます。それは日本で日本語のあいさつが来るのと同じだなあと感じました。



ガーナには、すてきな食べ物もたくさんあります。皆さんガーナといえば、チョコレートが思い浮かぶと思いますが、チョコレートの原料のカカオは、ガーナの主要農産物の一つとなっています。ガーナはまだ開発途上でカカオからチョコレートに加工できる工場は多くなく、カカオの多くが輸出されています。チョコレートのイメージが強いカカオですが、チョコレートになるカカオの種の周りには実がついています。実はカカオの実はとてもフルーティでおいしいんです。ガーナ人によると、チョコレートよりもカカオの実を食べたことがないのは残念と言われるくらい! アフリカ圏に行かれた際にはぜひチャレンジしてみてください。また、マンゴーもとってもおいしくて、マンゴーの収穫時期にはそこら中にマンゴーがなっています。

一個数十円から 100 円程度で買えるので日本よりかなり安いです。アフリカの真夏の空の下でのキンキンに冷えたマンゴーは格別でした。

最後にガーナでの洋服事情についてお話します。ガーナでは既製品もあるのですが、布を買って仕立屋に頼むオーダーメイドの服が正装となっています。布は市場で買うことができます。市場には食品や日用品を扱う女性たちが頭に売り物を載せて運んでいたり、自分のブースに商品を並べて売っていたりします。

そこで好きな布の柄を選ぶのですが、これがとってもかわいくて日本にはない柄ばかりで迷ってしまいます。布はヤード(約 91 cm²)という単位で買います。シャツやスカート、パンツなら 2 ヤード、ロングタイプのワンピースは 4 ヤードくらいです。布を買ったら仕立屋にもって行って、ネットでしらべた好きな服の画像などを見せて、作ってほしいデザインをオーダーします。オーダーして 1 週間から 2 週間後に完成となります。私もかわいい布を見つけては何着も洋服を作りました。ワンピースでは、布と仕立て代で 2000~3000 円(当時のレート)くらいで作れました。日本に帰ってからもよく着ています。簡単でしたが、ガーナのお話はいかがでしたか? アフリカ・ガーナに親しみを持ってもらえればうれしいです。



続・世界を知る

JICA海外協力隊グローバルプログラム

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団所属 岩倉 詩奈さん(2024年5月~7月)

私はグローバルプログラムで熊本に来ていました。熊本市国際交流会館で日本語関連・多文化共生関連のことに携わらせていただきました。グローバルプログラムとは JICA 海外協力隊合格者の希望者が訓練前に日本各地に行き地方創生や課題に取り組むというものです。熊本県では同期間中 10 名、熊本市、玉東町、戸馳島、人吉市、多良木町、五木村で活動していました。私はこの訓練後、2 年間、日本語教育でスリランカに派遣されています。

私は中学 3 年生から日本語教師になるという夢を持っていましたが、大学に入って夢が現実になっていくときに、本当に日本語教師という仕事につくか、とても悩みました。日本語教師を仕事にしようと思ったきっかけは、大学時代に日本語パートナーズとしてインドネシアに行ったことでした。日本語パートナーズとは独立行政法人国際交流基金が行う、アジアの中学・高校などの日本語教師や生徒のパートナーとして授業のアシスタントや文化紹介を行うという事業です。

街の風景



インドネシアは 13,466 島からなる人口 2 億7千万人の国で、首都はジャカルタです。首都移転が宣言され、2045 年までにはカリマンタン島のヌサンタラという場所に移転します。私が行ったのは、インドネシアの西に位置するスマトラ島、西スマトラの「ブキティンギ」という町です。名前の意味は、「高い丘」という意味です。スマトラ島といえばスマトラ島沖地震で聞き覚えのある方もいるのではないのでしょうか。ブキティンギは、西スマトラにあるミナンカバウ空港というところから 3 時間ほど行った標高 900m ほどの 2 つの山に囲まれた町です。気温は 25℃ほどで朝晩は冷

えますが春のような気温です。外国人が観光に来るというよりかは、インドネシア人の観光地で避暑地として知られています。

西スマトラ地域ではインドネシアの中でも珍しく女性社会で、管理職が女性のことも多いです。私の派遣された高校 2 校とも女性の校長先生でした。町の 98%がイスラム教徒で信仰心も強いです。

禁忌とされる豚肉やアルコールが提供される店はほとんどありません。町にはいたるところにモスクがあり毎日 5 回かさずお祈りをします。学校にもモスクがあり、授業の途中でお祈りの時間もありました。



ジャムガダン

街の中心にはジャムガダンという時計台があります。これはオランダの植民地時代の記念碑として建てられています。西スマトラにはミナンカバウという民族の文化があるのですが、その文化の特徴の一つが、建物の屋根が牛の角をみたて、上に向いています。ジャムガダンにも取り入れられていて、屋根がとんがっています。そして、西スマトラのパダン料理の「ルンダン(牛肉煮込み)」は米 CNN の「The world's 50 best foods(世界の 50 の美食)」で 2016 年に 1 位になりました。

ルンダンがおいしいと有名な店は、午前中で売り切れるほど人気で、とても肉が軟らかくスパイスも効いており、日本で売っているレトルトのものと比べ物にならないほどおいしいです。そしてパダン料理は席に座ると注文していないのに食べ物が出てきます。その手を付けた料理のお金を払うシステムです。

尖がった屋根



また、ブキティンギには旧日本軍が掘ったルバン ジパンという防空壕があります。ほとんどの日本人が知らない場所に日本の歴史が残っているのです。太平洋戦争時代、ブキティンギは日本陸軍の参謀本部が置かれ、スマトラ島全域を統括する拠点となりました。そんな日本とも繋がりが強いブキティンギは日本語教育にも熱心でした。先生たちが教師会を開いて勉強会や授業について話したり、BUNKASAIと称し、日本に関するコンテストをしたりしていました。

そのなかで私は私立高校と国立高校の 2 校に派遣されていました。インドネシア人は人懐っこい人が多く、とにかく日本人と話したい！という気持ちが強い子が多かったです。初めはひらがなも、あいさつもわからなかった学生が、半年後には私に手紙が書けるようになるまで成長する姿を見て、「日本に行きたいです」と言ってくれて、感動しました。そして、町の人たちは、外国人である私たちに対して優しく、助けてくれて、いつも輪に入れてくれました。私はそんな人たちが日本来たときの手助けをしたいと思ったのが日本語教師になる最後の一押しでした。

私はグローバルプログラムで初めて熊本に訪れ、3 か月過ごし、熊本のおいしい食べ物や自然、歴史などを学びました。ここで西スマトラの魅力を紹介させてもらったように、今はスリランカで熊本の魅力を紹介しています。



旧日本軍の防空壕跡



ルンダン

【重要なお知らせ】電気設備改修工事に係る全館利用停止について

日頃より熊本市国際交流会館をご利用いただき、誠にありがとうございます。今年度の計画として電気設備の改修工事を予定しており全館停電作業になることから、下記の期間中のホール並びに会議室利用の受付を停止することとなりました。ご利用予定の皆様にはたいへんご不便をおかけしますが、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。※なお、施設利用はできませんが、電話、メールでのご相談は通常通り受付けております。

利用停止場所： 熊本市国際交流会館 全館

利用停止期間(予定)： 令和8年(2026年)1月27日(火曜日)から3月6日(金曜日)まで

※工事に伴い、当該期間中のホール並びに会議室の利用は出来ない為ご予約は受付できません。

☆ 2025 年度 賛助会員募集！ ☆

事業団では賛助会員を募集しています。私どもの活動にご理解とご支援をいただくとともに、更なる国際交流や国際協力の輪が広がることを願っています。会員の方々には事業団の機関紙「ニュースターくまもと」の送付や様々な情報の提供をさせていただきます。ご協力いただける方はお手数ですが下記連絡先までお問合せいただきますようお願い申し上げます。

《個人会員》 一口 2,000 円 《団体会員》 一口 10,000 円

私たちは熊本市の国際交流活動を応援しています。団体会員のみご紹介いたします(敬称略)

◇◇事業団 SNS のご紹介◇◇

事業団SNSのご紹介 ～事業団が使っている SNS をご紹介します！是非アクセスしてみてくださいネ！～

Instagram		Facebook			X(旧 Twitter)	YouTube	相談プラザ
							
メイン	外国人向け	メイン	外国人向け	相談プラザ			



《お問合せ・連絡先》

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

熊本市中央区花畑町 4 番 18 号(熊本市国際交流会館)

(休館日)第2・第4月曜日、年末年始(12月29日～1月3日)

(TEL)096-359-2121 (FAX)096-359-5783

✉ pj-info@kumamoto-if.or.jp

URL: <https://www.kumamoto-if.or.jp>